

「看護系大学生における SNS の使用態度と
対人コミュニケーションの関係」について
～研究の説明文書・同意文書～

研究機関の名称：名古屋市立大学大学院 看護学研究科
研究責任者：名古屋市立大学大学院 看護学研究科 今泉 源
研究分担者：名古屋市立大学大学院 看護学研究科 桐山 啓一郎
横浜市立大学 医学部看護学科 藤澤 希美
創価大学 看護学部看護学科 一柳 理絵
名古屋市立大学大学院 看護学研究科 加藤 崇洋

この説明文書は、あなたにこの研究の内容を正しく理解していただき、この研究に参加するかどうかを判断していただくためのものです。参加するかどうかは、あなたの自由な意思で決めてください。

この説明文書に書かれている内容について、すべて理解した上で研究に参加をしていただける場合は、別紙の同意書に署名してください。

分からないことや不安なことがある場合は、研究責任者、研究分担者、または担当医師にお聞きください。

1 はじめに

この研究は、名古屋市立大学看護学研究科研究倫理委員会の審査を受け、看護学研究科長に承認されています。

2 この研究の実施体制

この研究は、名古屋市立大学を中心として、複数の研究機関が共同で実施します。実施体制は以下の通りです。

	研究機関の名称	研究責任者
研究代表機関	名古屋市立大学	今泉源 (研究代表者)
共同研究機関	横浜市立大学	藤澤希美
	創価大学	一柳理絵

3 この研究の目的、意義

近年、SNS (Instagram や X (旧 Twitter)、LINE など) は 10 代・20 代の人にとって日常的なコミュニケーション手段になっています。総務省 (2024 年) の調査によると、10 代は平日で平均 56 分、休日で 80 分、20 代は平日で約 80 分、休日で 100 分以上 SNS を使っており、他の年代よりも利用時間が長いことがわかっています。SNS には、気軽にやり取りできる、複数人と同時に情報を共有できる、投稿をいつでも見返せるなどの便利さがあります。また、文字や画像で自分の伝えたい部分だけを表現できるため、恥ずかしさを感じにくく、自己表現がしやすいという特徴もあります。一方で、SNS に依存しすぎると、対面でのやり取りが苦手になる可能性があるという指摘があります。特に、対人関係に不安がある人ほど SNS を好んで使い、直接人と関わることを避ける傾向があるとされています。実際に、10 代~20 代の約 7 割がスマートフォンへの依存を感じているという調査結果もあります。

看護の仕事は人と関わるのが中心であり、看護系大学生も実習などで多くの患者と直接接する機会があります。その中で、自分への関心から他者、そして患者の人生へと関心が広がっていくとされており、対人感受性や直接のやり取りの経験が大切になります。しかし、SNS の使い方が対面での関わり方にどう影響しているのかについてはまだ十分にわかりません。SNS では自分を理想的に見せやすい反面、対面ではそうした表現が難しく、緊張や不安の原因になることも考えられます。

そこで本研究では、看護系大学生が SNS をどのように使い、どんな態度で関わっているか、そしてその傾向が対面のコミュニケーションにどう影響しているのかを明らかにすることを目的としています。この研究によって、看護学生の人間関係の特徴を理解し、今後の看護教育に役立てることを目指します。

4 あなたがこの研究の対象者に選ばれた理由

以下の項目の全てが当てはまる方に、この研究に参加していただけます。

- ① 大学に所属する学生の方
- ② 所属学部もしくは学科が看護学を専攻としている方

5 この研究の方法および実施する期間

1) 研究実施期間

この研究の実施を許可された日から西暦 2027 年 3 月 31 日までです。

2) 研究対象者の数

全体で約 1160 名の方に参加いただく予定です。

3) 研究の方法

- (1) 名古屋市立大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認後、各研究実施施設に研究の説明を実施し、各研究機関の長の許可を得ます。
- (2) 各研究機関の同意が得られたら、各研究機関の研究責任者は研究の対象者に対して、各研究機関で使用している教務情報システムで研究の協力への周知を行います。
- (3) 連絡のあった研究対象者は、Web 上で公開されている研究説明書を閲覧し、研究へ同意する場合はそのままオンラインアンケートへの回答を行います。

6 この研究に参加することで期待されるあなたの利益と予測される負担・リスク 《利益について》

この研究に参加することによる研究対象者への直接の利益はありませんが、SNS 使用態度やのめり込みの状況と対人コミュニケーションの傾向の関連が明らかになることにより、対人関係構築のプロセスにおける看護教育へ貢献ができると考えられます。

《不利益（負担やリスク）について》

対象者には以下の負担やリスクが考えられます。

- ① 質問紙への回答に 10-15 分程度の時間的拘束があります。
- ② 質問紙の内容によって個人の過去の辛い経験や感情を喚起する可能性があります。
- ③ 所属する学科の教員が行っている研究であるため回答への心理的なプレッシャーを感じる可能性があります。
- ④ 無記名であっても、回答について、個人が特定される可能性があると感じ、心理的な萎縮や不安を生む可能性があります。

7 研究への参加の自由と同意撤回の自由

この研究への参加はあなたの自由意思によるものです。この研究に同意された後もアンケートの回答中であれば、いつでも参加を取りやめることができます。しかし、アンケート提出後は無記名のアンケートで個人を特定することができないため、同意の撤回が行えないことに注意してください。

また、同意されない場合にあなたが今後の教育や学校生活等で不利益を受けることは決してありません。

8 研究に関する情報公開

この研究の成果は、学術雑誌や学術集会を通して公表する予定ですが、その際も参加された方々の個人情報などが分からない状態で発表します。

9 研究計画書や研究の方法に関する資料の入手・閲覧について

この研究の計画について詳しくお知りになりたい場合は、研究責任者または研究分担者にお申し出ください。研究に参加している他の方の個人情報や研究の知的財産等に影響しない範囲で、資料をお渡ししたり、お見せしたりすることが可能です。

10 個人情報等の取り扱い

本研究では、氏名、住所等の特定の個人を識別できる情報を収集することはありません。アンケートにて収集した情報は、この研究用の Web データベースに入力することにより提供します。データを取り扱う際には、ウイルスチェックが十分されているパソコンを使用します。

11 試料・情報の保管方法、廃棄方法

この研究の情報は、研究責任者が研究機関内の施錠可能な棚に保管します。電子媒体の情報は外部ネットワークに接続しないパーソナルコンピュータで管理し、研究責任者が管理するパスワードを設定し、研究責任者及び研究分担者のみアクセス可能とします。パーソナルコンピュータはセキュリティの厳重な部屋に保管します。

保管期間は、この研究の終了について報告した日から5年を経過した日、またはこの研究の結果の最終の公表について報告した日から3年を経過した日のいずれか遅い日までです。

保管期間が過ぎた後、情報は廃棄します。紙媒体の情報はシュレッダーで裁断し、電子媒体の情報は削除して復元不可能にしたうえで廃棄します。

12 あなたの試料・情報を将来の他の研究に用いる可能性や、他の研究機関に提供する可能性について

あなたの情報を、将来、研究に使用させていただく可能性や、他の研究機関に提供することはありません。

13 研究により得られた結果等の取り扱い

本研究は無記名自記式質問紙を用いた研究であるため、個人的な結果を知らせることはできません。本研究において得られた結果は学会での発表や論文にて公表することがありますが個人が特定されることはありません。

14 相談やお問合せがある場合の連絡先

この研究について知りたいことや、ご心配なことがありましたら、研究責任者・分担者に遠慮なくご相談ください。

【連絡先】

名古屋市立大学大学院看護学研究科精神保健看護学

所在地： 〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地

電話番号： 052-853-8848

(対応可能な時間帯) 平日 9 時から 17 時まで

対応者： 今泉源

15 あなたの費用負担、謝礼の有無

この研究に参加することによって、あなたに費用の負担を求めることはありません。また、この研究に参加いただくことによる謝礼はありません。

16 この研究に参加しない場合の治療方法等について

この研究に参加されない場合にあなたへの教育や学校生活等で不利益を受けることは決してありません。

17 研究実施後の医療の提供に関する対応

この研究では医療行為は行わないため、該当しません。

18 研究によって生じた健康被害に対する補償の有無、その内容

この研究に参加しても健康被害が生じる可能性はないため、該当しません。

19 モニタリングおよび監査について

研究がきちんと行われているか、または研究結果の信頼性があるか確認するため第三者が行う調査を、モニタリングや監査といいます。

この研究では、モニタリングや監査を行う予定はありません。

20 この研究の資金源および利益相反について

この研究は、日本アディクション看護学会の研究助成金により実施するものです。利益相反の状況については、名古屋市立大学大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会に必要事項を申告し、適切に管理しています。

21 研究成果の帰属について

この研究で得られるデータまたは発見に関しては、研究者もしくは研究者の所属する研究機関が権利保有者となります。この研究で得られるデータを対象とした解析結果に基づき、特許権等が生み出される可能性があります。ある特定の個人のデータから得られる結果に基づいて行われることはありません。したがって、このような場合でも、あなたが経済的利益を得ることはなく、あらゆる権利は、研究者もしくは研究者の所属する研究機関にあることをご了承ください。